

登米市(仮称)地域交流センターに係る市民説明会 主な質疑内容(暫定版)

※これまでの日程において、いただいた主な質問と回答を整理したものです。

【R8.7.27(迫会場)、28(南方会場)、29(中田・津山会場)分】

No.	質問・意見・要望の内容	回答の要旨
1	過去の市長選挙は、庁舎反対の民意で決まってきた感がある。「白紙撤回」の公約を破るのは間違っており辞任すべきだ。市長は公約の重みをどのように考えているのか。	公約とは公に約束することであり、批判は重く受け止めております。既存施設の維持更新に140億円以上かかることが判明し、将来世代への負担を少なくするため、新たな施設整備へシフトすることが最善の選択と判断しました。
2	ハコモノを整備するよりも医療体制の整備を優先すべきという民意が示されてきた。市長の1丁目1番地は病院だったはずではないのか。	病院事業が1丁目1番地、市民の命を優先するという思いは全く変わりません。行政機能を維持するための財政負担をできる限り減らし、その財源を医療や市民サービスに振り向けるための決断となります。
3	既存施設の改修費用が大きくなるのが分かり、将来を見据えて政策転換した決断に賛成する。合併特例債を活用した経済効果に期待する。	将来に向けて、より負担の少ない方を選択することで、行政サービスを持続可能なものにしたいとの思いであります。
4	新たな施設に機能集約するのになぜ中田庁舎の建て替え(46.2億円)」が含まれているのか。	分庁舎機能が集約されることから、新たな施設((仮称)地域交流センター)の完成後は同規模で建て替える必要はないものと考えております。中田庁舎については、34年間の期間中に目標使用年数(65年)を迎えますが、フラットに比較するために、便宜上、同規模の建て替えを想定したものであります。
5	資料にある既存4庁舎の現況調査は、専門業者による適正な調査なのか。期間と費用を明らかにしてほしい。	現況調査は専門業者の2社へ約2,000万円、5か月間かけて委託し、専門家の知見に基づき修繕費等を適正に積算しております。
6	建築資材が高騰し過去の施設でも上振れしている。無理に複合化することで事業費が膨張しており、これから人口が減っていく中で、維持・返済していくことが可能なのか。財政破綻を招く結果にならないか。	物価上昇については、工事発注までの期間を考慮し、想定の上昇率を乗じて試算しております。ご懸念の状況にならないよう、実施設計でさらに精査し、できる限り事業費を抑えるように進めてまいります。なお、既存施設の改修では国費支援がないため、現在の計画が財政負担を最小限に抑える手法と判断しております。
7	財政調整基金の残高はいくらあるのか。市の自主財源は3割程度であり、独自で100億もの事業費は出せない。いかに国から交付金や補助金を引っ張ってこられるかが重要である。	本市の予算規模である約490億～500億円に対し、令和7年度末の財政調整基金残高は約42億3,000万円となります。今回の施設整備において、国の補助金や合併特例債を活用することで実質負担が3割程度に抑えられることから、健全財政を維持しつつ整備を進められるものと捉えております。既存の市債償還も順次完了ため、将来世代に大きな負担を残すことはないものと考えております。
8	既存4庁舎は維持されるのか。稼働率の低い既存施設を減らして、しっかりとコストカットをしてほしい。	本市は合併前の各町域で公共施設が整備されており、全体では655施設、延床面積約50万平方メートルと多くの施設を抱えている状況にあります。そのため、平成28年度に公共施設等総合管理計画を策定し、類似施設の統廃合や長寿命化を図っていくこととしております。今後も公共施設の適正な配置に努めてまいります。
9	設計業務の契約額はいくらか。また、建築工事の発注は公開の一般競争入札になるのか。	設計業務に係る契約額は全体で約5億7,000万円となります。また、建築工事の入札方法等につきましては、今後しっかりと検討してまいります。
10	建設予定地は地盤が緩く、4階建ての建物の建設は無理だと地質学の専門家が指摘している。また、岩盤はなく泥炭層が波打って被害が出るとの指摘もある。	ボーリング調査により地下26m付近に岩盤(凝灰岩)を確認しており、これを支持層として杭を打設するため構造上の問題は無いものと考えております。
11	周辺エリアは、大雨で沼のようになる浸水リスクがあり、防災拠点としては不安だ。迫川が満水になり排水規制がかかった際の対策はどのように考えているのか。	浸水想定1.25mに対し、敷地の嵩上等で1.3m程度の浸水対策を計画しております。また、県による長沼川の河川改修(調整池含む)や市の側溝浚渫により、以前と比べ排水機能は改善してきているものと考えております。
12	建物を作って人を呼ぶという発想は時代錯誤だ。具体的ににぎわい創出の計画が見えてこない。果たして人口減少対策になるのか。	建物だけで直ちに人口減少が止まるわけではありません。中心市街地の空洞化を抑制するにぎわいの拠点として整備してまいります。
13	図書館の規模は登米市の人口に対して適切か。また、図書館の利用者は年間でどのくらいいるのか。	登米市の蔵書数は県内35市町村中29位と低く、新図書館(規模縮小し24万冊)を整備した場合でも県内で中間程度に位置する状況であり、過剰な施設ではないものと考えております。なお、現在の利用者数については、迫図書館、登米図書館、中田図書室の合計で年間約5万1,500人となります。
14	図書館の開館時間の延長や電子書籍を導入すべき。また、地元クリエイター(熊谷達也氏等)の特設コーナー設置や映像上映会で全国集客を狙うべき。自主出版本所蔵なども提案する。	開館時間の延長(朝9時から夜7時、土日も開館)や電子書籍導入を前向きに検討します。いただいたソフト面のアイデアについては、今後の参考にさせていただきます。
15	各種証明書はコンビニで取得できるため、庁舎に行く機会は減っている。AIやDXを活用して施設の規模を圧縮するとともに若い人材を登用して、効率化・人件費削減を進めるべき。市は綺麗なオフィスを作りたいだけではないか。	本市でも民間企業からDX人材を登用しデジタル化を進めております。新施設での執務室・窓口のDX化やペーパーレス化を含め、効率的な行政運営を進めてまいります。
16	本庁機能が迫に集中すると、周辺道路(五日町や的場等)の交通渋滞が懸念される。	渋滞対策としては、職員の時差勤務制度の導入による出勤時間の分散を検討し、働き方改革にもつなげてまいります。
17	一般駐車場は確保できているのか。また、職員用駐車場とのバランスはどのように考えているのか。	敷地内には一般用・公用車の計450台を確保します。職員用駐車場は敷地内の混雑を避けるため近隣の土地を借りるなどして別途確保する予定です。
18	現在の迫中江中央公園や迫体育館などの機能はこのまま残るのか。	既存の迫中江中央公園や迫体育館の機能については、縮小・廃止することなく維持し、新たな施設と一体的に活用していく計画となります。